

第2学年 音楽科学習指導案

2年4組 男子22名 女子18名 計40名

指導者 上西 珠子

【授業】 9:50~10:40 会場 音楽室(4階)

【協議会】 10:50~12:00 会場 3年1組(4階)

- 1 題材名 音の重なりやパートの役割を意識しながら自分たちの表現を工夫しよう
教材：《翼をください》(混声三部合唱) 山上路夫 作詞
村井邦彦 作曲

学習指導要領との関連

A表現(1)歌唱 ア、イ(ア)、ウ(イ)

〔共通事項〕(1)テクスチャ

2 題材について

(1) 題材設定の趣旨

本題材では、「翼をください」を通して、音の重なりに着目しながら曲にふさわしい合唱表現とはどのようなものかを追求していく。歌唱活動の楽しさは、他者と一緒に歌って一体感を感じられたとき、思いや意図をもって工夫した自分の演奏が聴き手に評価してもらえたときなど多々ある。その中でも、合唱は仲間と合わせる楽しさを感じることができる活動であり、音の重なりを意識しながら全体の中で自分のパートの役割を考えながら歌ったり、全体の響きを感じながら歌ったりすることは、まさに合唱の醍醐味とも言える。音楽はもちろん個人でも楽しむことができるが、学校という場における集団だからこそ味わうことのできる音楽の楽しみ方がある。それを義務教育の間に存分に体験させることが、子どもが社会に出た後も音楽と主体的に関わり、心豊かな生活を送ることにつながると考える。

今回扱う「翼をください」のアレンジは、3つの部分(A、B、C)で構成されており、Aは斉唱で伴奏も右手のみの静かな部分、Bは男声の主旋律に女声のオブリガートが重なる部分(混声二部合唱)であり、Cは混声三部合唱になって伴奏もリズムカルに変化する。本時ではBの部分を中心にその前後との変化に注目させ、パートの役割をふまえてどのように歌うことがふさわしいか考えさせる。斉唱や混声三部合唱については、1年次に取り組んだ合唱曲や前題材「夢の世界を」でも出てきているが、生徒にとってはBの部分の音の重なり(主旋律+オブリガート)が今までに経験したことのない新しい重なり方である。そこで、Bの部分の意図的に取り上げ、オブリガートの役割について考える。オブリガートがこの部分においてどのような効果をもたらしているかを考えることは、必然的に主旋律の存在を意識することとなり、主旋律とのバランスを考えたり、互いの声部を聴き合いながら歌ったりすることに結び付くと考えた。音楽的根拠を確かめながらじっくりと範唱を聴いたり、比較鑑賞をすることで音の重なりについて実感を伴って理解したりしながら、どのように歌うかについて、一人一人が自分の思いや意図をもって音楽表現を追求していく過程を大事にしたい。そして、生徒が「このように歌いたい」という思いをもつことが、必要感のある技能の習得へとつながると考えている。また、11月に行われる校内合唱コンクールでは2学年課題曲として「時の旅人」を選んだ。この曲も大きく変化する曲調と曲の構成を捉えること、主旋律、対旋律、ハーモニー等の各パートの役割を生かして表現を工夫していくことが必須である。本題材での学びがつながるように、題材の終末での振り返りで生徒の思考を整理したい。

(2) 生徒の実態

2学年の生徒は表現活動に意欲的な生徒が多い。特に歌唱に関しては、楽しいと感じている生徒が多く、卒業式の式歌練習にも積極的に取り組んだ。昨年度、3年生の合唱に感銘を受け、自分た

ちも同じようになりたいという願いをもっている。「翼をください」については小学校で聴いたり歌ったりしたことがある生徒たちも多いため、新クラスになって歌い合わせる楽しさを感じる楽曲としても取り組みやすいと考えた。また、1年次に初めて混声三部合唱に取り組む中で、歌詞の意味や作曲者の思いを考えることが大切であること、またそれらが強弱や速度等、様々な音楽を形づくっている要素と結び付いていることを実感している。しかし、パートの役割を意識したり、互いのパートを聴き合ったり、全体の響きを味わったりするまでには至っていない生徒がほとんどである。「翼をください」の[B]のような副次的な旋律のある楽曲には初めて取り組む。音の重なりやパートの役割を意識して合唱を作り上げていけるよう、2年次は「夢の世界を」「翼をください」「時の旅人」を合唱曲して取り上げ、段階を踏んで学んでいけるようにしたい。

(3) 指導の構え

① 題材全体を貫く「問い」

本題材の第一時に「音の重なりを意識して『翼をください』にふさわしい表現を工夫しよう」という題材全体を貫く問い(Let's型)を発することで、生徒は見通しをもって学習に取り組むことができる。また、よりよい合唱表現を考えていく上で生徒の思考・判断のよりどころとなる音楽を形づくっている要素は多くあるが、その中で生徒と教師の間で「音の重なり」というキーワードを共有することができる。題材の終末でも題材を貫く問いに対して振り返ることで、生徒は自分の学びをメタ認知したり、変容を自覚したりすることができ、教師も生徒の中に本題材で新たな「音楽の見方・考え方」が育ったかどうか見取りやすい。

② 比較による実感を伴った理解

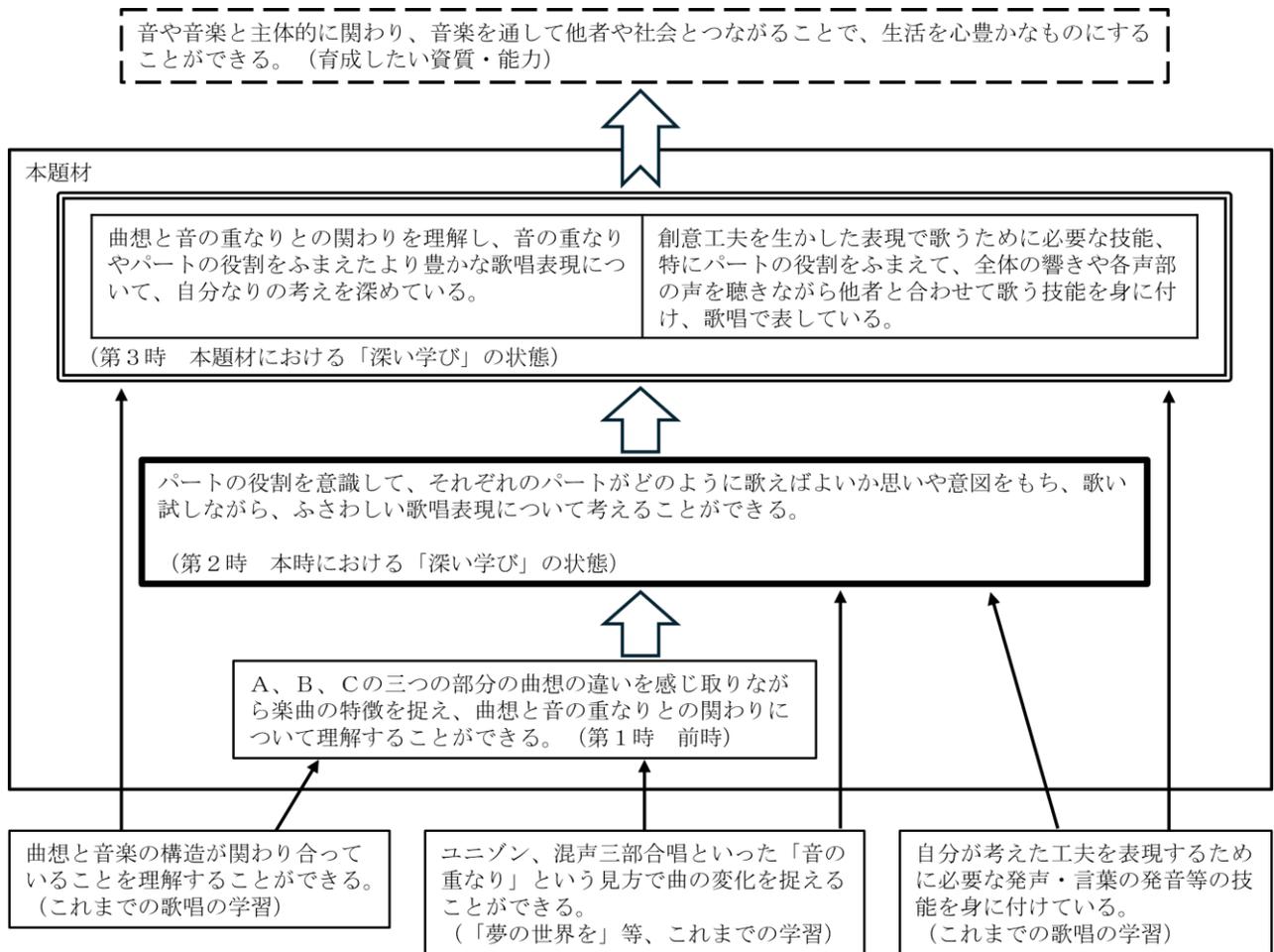
パートの役割について思考したり、表現を創意工夫したりする過程で、比較して鑑賞したり、実際に歌い試しながら比較したりすることで考えを深めさせたい。本時においては、[B]の部分でオブリガートがある場合とない場合を比較鑑賞し、「なかったらどう感じたか」「オブリガートはこの部分ではどんな役割を担っているか」等の問いを発することで、生徒はパートの役割やよさについて実感し、さらに思いや意図をもって表現しようとすると考えた。

3 「見方・考え方」を働かせ、「深い学び」を実現する授業づくり

【仮説】

題材全体を貫く「問い」を発することで、生徒は本題材で思考・判断のよりどころとすべき要素を明確にすることができ、音の重なりやパートの役割を意識しながら曲にふさわしい表現について思考を深めることができる。また、比較鑑賞したり、歌って比較したりすることで、音の重なりの変化による演奏効果やパートの役割について実感を伴って理解することができ、自らの価値判断を伴ったより豊かな創意工夫を考えることができる。

「深い学び」の構造図



「深い学び」を評価するためのルーブリック

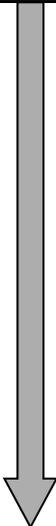
深い学び	A	B	C
曲想と音の重なりとの関わりを理解し、音の重なりやパートの役割をふまえたより豊かな歌唱表現について、自分なりの考えを深めることができる。また、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な技能を身に付け、歌唱で表すことができる。	Bの①に加えて、さらに他のパートの役割や全体の響きについても記述がある。全体の響きや他のパートを聴いて、バランスを意識しながら歌唱表現することができる。	①どのように歌いたいかについて、自分のパートの役割をふまえた考えを記述することができる。 ②①で考えた工夫を歌唱表現できる。	Bの①・②いずれもできていない、または①はできているが②ができていない。

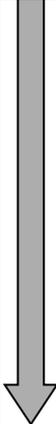
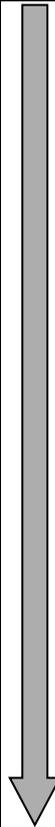
「深い学び」が実現できている

4 題材の目標

- 「翼をください」の曲想と音楽の構造との関わりを理解するとともに、全体の響きや各声部の声等を聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。〔知識及び技能〕
- ◎ 「翼をください」のテクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。〔思考力、判断力、表現力等〕
- 「翼をください」の曲想の変化と音の重なりや全体の響きとの関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、よりよい合唱表現を追求する。〔学びに向かう力、人間性等〕

5 全体計画（全3時間 本時2/3）

時	ねらいと主な学習内容および見方・考え方を働かせる「問い」	知・技	思	態	評価規準・評価方法・留意点等
第1時	<p>◎「翼をください」の曲想の変化に関心を持ち、テクスチュアの特徴を捉え、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取る。</p> <p>○音の重なりに着目しながら「翼をください」の範唱を聴き、本題材の見通しをもつ。 「今回歌うのは何部合唱だと思う？斉唱？」 「何部合唱だった？」 「ずっと三部合唱だった？」 「<u>音の重なりを意識して『翼をください』にふさわしい表現を工夫しよう</u>」</p> <p>学習課題 『翼をください』の音の重なりの変化を感じ取ろう」</p> <p>○聴いたり歌ったりしながら、テクスチュアの特徴について知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取る。 「今何が変わった？」 「どう変わった？」 「Bの女声は何？」 「重なり方によってAは Bは、Cは）どんな感じがした？」</p> <p>○まとめの合唱をし、本時を振り返る。</p>	 知 (観察・ワークシート)			<ul style="list-style-type: none"> ・小学校で取り組んだことがある生徒に合唱形態を尋ねることで、テクスチュアに目を向けるきっかけとしたい。 ・題材を貫く問い（波線部の問い）を提示することで、3時間の見通しをもたせる。 ・パートの役割（主旋律、オブリガート、ハーモニーをつける旋律）やパートの重なり方（ユニゾン、主旋律とオブリガート、三部合唱）について知覚させる。 ・音の重なりが可視化できるように楽譜にも書き込むなどしながら確認したい。 <p>◆「翼をください」の曲想と音楽の構造との関わりを理解している。【知識】（観察・ワークシート）</p>
第2時・本時	<p>◎曲想とパートの役割や音の重なりとの関わりを理解するとともに、BからCにかけてどのように歌えばよいか思いや意図を持ち、ふさわしい歌唱表現について考える。</p> <p>学習課題 「各パートの役割に着目して、BからCへの表現を工夫しよう」</p> <p>○Bの部分におけるパートの役割について理解する。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・Bの部分でオブリガートがある場合とない場合を比較することで、演奏効果やパートの役割について実感を伴って理解させたい。 ・主旋律としての歌い方、オブリガートとしての歌い方に加えて互いに聴き合うことの必要性についても考えさせる。

	<p>「B」のオブリガートって必要なの？どんな効果があるの？」 「オブリガートがなかったらどう感じた？」 「どんな役割をしていると思う？」 ○曲想の変化やパートの役割を踏まえて、BからCへかけてのふさわしい表現について考え、歌い試す。(個→小グループ→全体) 「それぞれのパートの役割を踏まえて、自分のパートはどう歌ったらいいか考えよう」 「主旋律には(オブリガートには)どう歌ってほしい？」 「どうしてそう歌ったらいいと思った？」 「バランスをとるって具体的にどういうこと？」 ○まとめの合唱をし、本時を振り返る。 「パートの役割を意識しながら歌ってみてどうだった？」 「次回、もっと工夫してみたいことや工夫してみたい部分はどこ？」</p>		 <p>【思】 (観察・ワークシート)</p>	<p>◆「翼をください」のテクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「翼をください」にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。 【思考・判断・表現】(観察・ワークシート) ・振り返りをする中で、次時の必要感の伴った技能の習得へとつなげたい。</p>
<p>第3時</p>	<p>◎創意工夫を生かした表現で歌うために必要な技能を身に付け、歌唱で表す。 学習課題 「パートの役割や音の重なりを意識しながら曲にふさわしい表現を追求しよう」 ○創意工夫を生かした表現をするための歌い方を追求する。 「A」のユニゾンはどんなことに気を付けて歌えばいいかな？」 「C」の縦の線が合うところはどんなことを意識すればいいかな？」 「各パートのバランスはどう？」 「どんな息の吸い方がふさわしい？」 「どんな息の流れがふさわしい？」 ○まとめの合唱をし、題材における学習を振り返る。 <u>「パートの役割や音の重なりを意識しながら合唱をやってみてどうだった？」</u> 「今後に生かしたいことはどんなことですか？」</p>	 <p>【技】 【演奏】</p>	 <p>【態】 【観察・ワークシート】</p>	<p>・歌い試していく中で、どのように歌うかについて思いや意図が変化したり、より具体的になったりした場合にはワークシートに加筆させる。 ・聴き手を作り、工夫点を意識した場合と意識しなかった場合の歌唱を比較したり、まとめの合唱を聴いたりすることで、自分たちでも学習の成果が実感できるようにしたい。 ◆創意工夫を生かし、「翼をください」の全体の響きや各声部の声等を聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付け、歌唱で表している。【技能】(演奏) ◆「翼をください」の曲想の変化と音の重なりや全体の響きとの関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】(観察・ワークシート)</p>

6 本時の学習（全2／3時間）

（1）指導目標

曲想とパートの役割や音の重なりとの関わりを理解させる。また、**□B**から**□C**にかけてどのように歌えばよいか思いや意図をもたせ、ふさわしい歌唱表現について考えさせる。

（2）展開

学習活動と予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ◆学習評価の観点
<p>1 「翼をください」を合唱し、前時の学習を想起する。</p> <p>2 学習課題を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じてパートごとに音を確認する。 ・音の重なりがユニゾン→主旋律+オブリガート（二部）→主旋律+主旋律にハーモニーをつける旋律（三部）に変化していくことをおさえる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">各パートの役割に着目して、□Bから□Cへの表現を工夫しよう</div>	
<p>3 □Bのオブリガートの役割について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オブリガートがなかったらもの足りない感じがする。つまらない。 ・あった方が華やかな感じになる。 ・やわらかい雰囲気になる。 ・□Cに向けての盛り上がりが増す感じがする。 <p>4 曲想の変化やパートの役割を踏まえて、□Bから□Cにかけてのふさわしい表現について考え、歌い試す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テノールは主旋律なので、大事な言葉が聞こえるようにしっかり歌いたい。 ・主旋律はただ強く歌うだけではなく、オブリガートも聞きながら優しく歌いたい。 ・「ルルル」のところは柔らかに包むように、主旋律を引き立たせる感じで歌いたい。 ・オブリガートは主旋律より大きくはならないように、でも小さすぎないようにバランスをとって歌いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・□Bの部分で女声のオブリガートがある場合とない場合を比較し、「オブリガートがなかったらどう感じたか」「オブリガートがあることでどんな効果があるか」等の問いを重ねることで、オブリガートの効果やパートの役割について実感を伴って理解させたい。 ・主旋律についても、メインであることや歌詞がついていること等を簡単におさえておく。 ・個人でワークシートに記入したのち、パート混合の小グループで自分のパートを意識しながら考えを伝え合うことで、思いや意図をしっかりとらせる。 ・オブリガートの追いかけの部分（「つばさ」の部分）についての意見があれば意図的に取り上げるなどして、主旋律としての歌い方、オブリガートとしての歌い方に加えて、互いを意識して聴き合うことの必要性についても考えさせる。 ・生徒から出た意見を全体で共有する場面では、工夫点を意識した場合としなかった場合を歌い比較したり、聴き手役の生徒をつかって生演奏をその場で聴かせたりすることで、変化を実感させたい。 ・歌い手には何を意識したか、どう歌い方を変えたかを問うことで、技能を身に付けるための手立てとしたい。

<p>5 まとめの合唱をし、本時を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分がどんな風に歌えばよいのか分かった。男声を意識しながら、やわらかく歌うことができた。 ・オブリガートがふわっと乗っかる感じで歌うのがちょうどいいと思った。 ・主旋律がもう少ししっかりと歌ってくれればオブリガートがもっと優しく聞こえると思う。バランスをとるのが難しかった。 ・次回は□の部分の3パートの重なりを意識して歌ってみたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テノールとソプラノ・アルトが向かい合う隊形にすることで、お互いのパートをより意識しながら歌えるようにする。 ・パートの役割を意識しながら歌ってみてどうだったか、次時にもっと歌い試したいところ等について書かせ、次時の必要感の伴った技能の習得へとつなげたい。 <p>◆「翼をください」のテクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「翼をください」にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。</p> <p>【思考・判断・表現】（観察・ワークシート）</p>
--	---

7 授業観察の視点

- ・ 授業者の発問は、生徒の思考を深めたり、思いや意図をもたせたりするのに適切であったか。
- ・ 比較鑑賞する場合は、生徒の思考を深めたり、実感を伴った理解をさせたりするのに有効であったか。